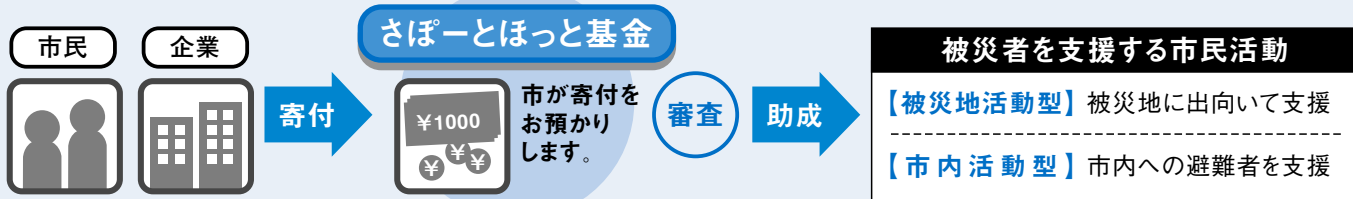


# 被災者支援の活動を応援する仕組みがあります。

## さぼーとほっと基金

市民の皆さんからの寄付をもとに、市民活動団体によるまちづくり活動に助成を行い、活動を支援する制度です。



### ■「被災者支援」を指定して寄付できます

寄付の際に、使い道を指定できます。昨年4月から、福祉・環境など17の「分野」や「団体」指定などに加えて、「被災者を支援する市民活動」を指定した寄付を受け付けています。

### ■多くの支援活動に役立てられています

これまでに被災者支援を指定した寄付金額は、合計約1,173万円(71件)。市が活動の緊急性などを審査し、これまで14の被災者支援活動に約946万円を助成しています。

## 寄付で、被災者支援を応援しませんか

### 1.被災者支援活動応援口座への振込

手軽に寄付できる

指定銀行の窓口、ATMから振り込みができます。  
**指定銀行** ①北洋銀行札幌市役所支店(普)〔口座番号〕3209345  
 ②北海道銀行本店営業部(普)〔口座番号〕1759090  
**名義** ささえる会 被災者支援活動応援口座 代表 鈴木 克典

税の優遇を受けられる

### 2.寄付申出書による手続き

下記で配布している申出書を提出。その後送付される納付書を使い、銀行などで振り込みます。個人の方は所得税と住民税が軽減され、法人は全額損金算入が可能です。  
**申出書の配布・提出場所** 市役所13階市民活動促進担当  
 ※申出書は下記のホームページからもダウンロードできます

「さぼーとほっと基金」に関するお問い合わせは、市民活動促進担当 ☎211-2964へ  
 ホームページでも詳しい情報をご覧になれます [www.city.sapporo.jp/shimin/support/kikin/shien.html](http://www.city.sapporo.jp/shimin/support/kikin/shien.html)



市内で  
避難者を  
支援

いつ故郷に帰れるか。  
募る不安を  
少しでも和らげたい。

昨年4月、道内に避難している被災者自身が結成した「みちのく会」。避難者同士の情報交換の場として、また避難者と支援者・行政をつなぐ橋渡し役として活動しています。



茶話会の様子。札幌に避難してきて、ここで初めて頼れる仲間に出会うことも多い。

みちのく会会長  
ほんまきいこ  
**本間 紀伊子**さん  
9年前から夫と息子3人で宮城県川崎町で生活。昨年3月末、家族と一緒に実家のある札幌に避難した。

かさむ一方、寄付などの活動資金は減少し、資金不足が深刻になっています。

### —札幌への避難者はどんな方が多いのですか。

福島県からの避難者が大半で、やはり原発事故の影響を心配する母子が多いです。札幌を選ぶ理由は、福島から遠いことと、安全な道産食材が豊富なこと。海を越える分、永住を考えた強い決意で避難してくる人が多いですね。

### —皆さんに一番伝えたいことは。

仕事の都合で夫は被災地という、二重生活を続ける避難者も多く、経済的・精神的に追い込まれています。さらにその苦境の出口は見えません。学校の年度替わりを待って、この春避難してくる親子も多いのではないかと思います。故郷や当たり前の日常を捨てざるを得なかった人たちに、札幌で少しでも安心して暮らしてほしい。支援はまだこれから必要なのです。

### —活動のきっかけを教えてください。

私自身、原発事故の情報が全然入らない状況に耐えかね、3月末に宮城県から避難してきました。4月に行われた避難者支援のイベントで、多くの避難者に会い、不安や悩みを共有できる横のつながりが必要と痛感。そこで知り合った12世帯で会を結成しました。

### —どのような支援活動をしていますか。

会報やホームページで、避難者や移住希望者に市内の生活情報を発信しています。また、毎週木曜日に避難者が気軽に集える茶話会を開催。会員が700人を超え、会報の送付などの経費が